

10. 環境報告書の評価と編集後記

10.1 環境報告書の評価

■ 第三者有識者のコメント

宇部市市民環境部環境政策課長 林 孝之

山口大学と宇部市の間には、ばいじん汚染による公害克服の過程において、いわゆる「宇部方式」の成功に多大な貢献をいただいた歴史があります。あれから半世紀以上が経過し、環境問題がより複雑化する中、現在も宇部市環境審議会、宇部志立市民大学、宇部コンビナート省エネ・温室効果ガス削減研究協議会等に御協力いただいていることに御礼を申し上げます。

さて、貴学の医学部と工学部が本市に立地し、学内のエネルギーの約80%が本市で消費されていることから、地域の地球温暖化対策を推進する立場にある市としては、貴学の環境保全に対する姿勢や取組に大きな関心を持って、報告書を拝見させていただきました。貴学のエネルギー使用量は本市の事務事業のそれを上回る規模であり、3市にまたがる環境マネジメント体制を運営し、エネルギー消費原単位の削減や節水目標等を達成されている点は高く評価できます。今年度から追加されたエネルギーコストによる分析も職員や学生に対する見える化に効果があると感じました。

また、本市は国が選定するSDGs 未来都市の一つとして、市民や教育機関に対するSDGsの認知度向上に注力していることから、「SDGs 関連授業をシラバスに明記し、関係者に諸課題の解決貢献を意識付ける」という新たな取組については、他の教育機関のモデルになることを期待し、次年度以降の報告書にも進捗状況を掲載することを希望します。

さらに各章を見ますと、「COOL CHOICE」や「ぶちエコやまぐち」に関する取組など、本市との共通点が多いことから、学生の皆さんには、市で開催されるイベント等への積極的な参加をお願いします。地域の中における取組として「フードドライブ」が掲載されていますが、本市も2019年度からフードバンク事業を開始していますので、ここでも学生の皆さんの経験を生かし、相互に協力できることを期待します。

今、大学に求められるものは、これからの持続可能な社会づくりの担い手となる人材の育成と地球温暖化をはじめとする多くの課題を解決するための技術革新の発信源となることだと思います。その意味でも、新たに修士論文・卒業論文が掲載されていましたが、先生方の研究も含め、見る側には今の大学を知る貴重な資料だと言えます。今後も、貴学が地域と世界の舞台でその研究成果をどのように活用されているかについて、報告されることを期待します。

最後に、冒頭の学長トップメッセージにおいても、SDGsやSociety5.0といった話題に触れられていますが、世界の動きに比べて地域社会の認識はまだ深まっていないように感じられます。これから社会の大黒柱となる学生の皆さんの認識がさらに高まり、さまざまな場面において、リーダーシップを発揮される活動が増えていくことを期待します。



図10-1 宇部SDGs推進センター
オープニングセミナー（4月23日）



図10-2 子どもSDGs学習会（7月31日、8月1日）



10.2 編集後記

■ 環境責任者のコメント

環境報告書の目的は、環境配慮促進法に基づき、本学の事業活動や学生・教職員の環境配慮活動を公表することで、社会に対する説明責任を果たすことは勿論、事業活動に係る環境保全についての配慮が適切になされることを確保するものです。

今回、掲げた環境目標は、学生・教職員の協力があり、すべてについて概ね達成することができました。

特に、「環境貢献技術の創出」では、環境対策に関する教員の研究活動紹介、および学生の修士論文・卒業論文を多数掲載したことや、「環境モラルの醸成」では、国民運動「COOLCHOICE」や県民運動「ぶちエコやまぐち」への取組、「地域との協調・コミュニケーション」では、「フードドライブ@山大」へのボランティア参加等、学生・教職員が地域と一体となった環境配慮活動について多数掲載いたしました。

環境報告書の第三者評価として、以前から本学と地域連携協定関係にある宇部市に依頼しました。

宇部市は、「環境先進都市うべ」を謳い、UNEP（国連環境計画）による「グローバル500賞」を受賞した実績を有するとともに、本学の工学部、医学部および附属病院が立地し、本学の全エネルギー消費量の約8割をこの宇部市で消費している実情からも、第三者評価の依頼先としてまさに最適であると考えています。

業務ご多忙にも拘らず第三者評価を快諾いただいた市民環境部環境政策課様には、あらためて心より御礼申し上げます。

本学は、国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」への取組を推進するため、関連する授業についてシラバスに明記して、学生に「SDGs」の諸課題の解決への貢献を意識付けることとしています。

環境配慮活動も同様に、学生・教職員に「SDGs」の諸課題の解決への貢献を意識付ける取組がますます重要になってくると考えており、今後もさらなる改善を継続してまいります。



国立大学法人 山口大学
環境責任者
財務・施設担当副学長
小坂 慎治

